

振り返って

元施設長 阪部 顕子

法人五十周年、あかつき特別養護老人ホーム四十周年おめでとうございます。
ご要望に応え設立当初から振り返ってみたいと思います。

ヌヴェール愛徳修道会は、ロベール・バラード神父の要請により一九六六年六月に箕面の地に参りました。

一九六六年八月に神戸の曙光会へバラード神父にご挨拶に伺いました時には、まだ建物は無く、路上生活者のようなテントの場所、中から出て来られ、お会いしたのを覚えております。

当時の箕面の地は、大自然の山の中で夜は暗黒の中、北原病院の門柱の上に梟が止まりホーと鳴いていました。

以下年代の順に経過を記します。

一九六六年八月 旧北原病院（当時浪速病院分院でした）を閉鎖し、医療法人北原病院を申請

一九六六年十月 一日 医療法人北原病院 開設許可

十月三日より運営開始

一年後、ロベール・バラード理事長は、増床を希望される。

当時は、社会福祉法人立での病院開設は、不可能でした。

大阪府に相談したところ現在、特別養護老人ホームの必要性が大きく北摂地域に是非創設を希望しますとのこと。

北原センターの土地は、ロベール・バラード個人の名義で登録されていたので、社会福祉法人として登録する。

特別養護老人ホーム開設願ひ申請 厚生省にご挨拶に行く（大阪府より勧められた。）

一九六九年 五月十三日 土地の祝別（地鎮祭）が行われ工事着手

一九七〇年 六月 一日 あかつき特別養護老人ホーム五十床開設

老人ホームと病院の併設は、理想的といわれ、数年運営の結果、種々の法律的にも問題があり、複雑な点から社会福祉法人に一本化する方向に向かって準備を進める。

一九七五年 十月 一日 あかつき特別養護老人ホーム七十床に増床

北原病院二階をホームと連結する。

一九七六年 十月二五日 あかつき特別養護老人ホーム付属診療所開設

北原病院閉鎖と同時にホームにおける医療行為は、必須なので申請した。以降は、社会的老人介護のニーズに应运て行く。

一九八〇年 四月 一日 老人ショート・ステイ事業開始

一九八七年 三月 三日 デイ・サービス事業開始

四月 十日 老人ショート・ステイを六床に増加

一九九〇年 四月 一日 ホームケア促進事業開始

一九九一年 四月 一日 在宅サービス供給ステーション事業開始

在宅介護支援センター開設

ホームヘルプ事業開始

一九九二年 八月 一日 障害者ショート・ステイ開始（障害者ショート・ステイ施設の要望有）

一九九三年 三月 事業完了

事業が軌道に乗る迄のお手伝いと言うお約束でしたので、私達は、引かせて頂きました。

「私たちは植え、アポロは水をやりました。しかし成長させて下さったのは、神です。」（聖書の言葉）

設立当初には、多くの善意の方々が、戦後間もない頃から高度経済成長の道程に入る頃、社会福祉制度は、実に粗末なものでした。然し、私利私欲を越え、本当に助けて下さいました。

現在、いろいろと世の中では言われていますが、とても当初の頃から見れば、満たされたものです。殆どの恩人は、天国に召され、この方々の土台の上に発展してきたものです。心から感謝申し上げます。